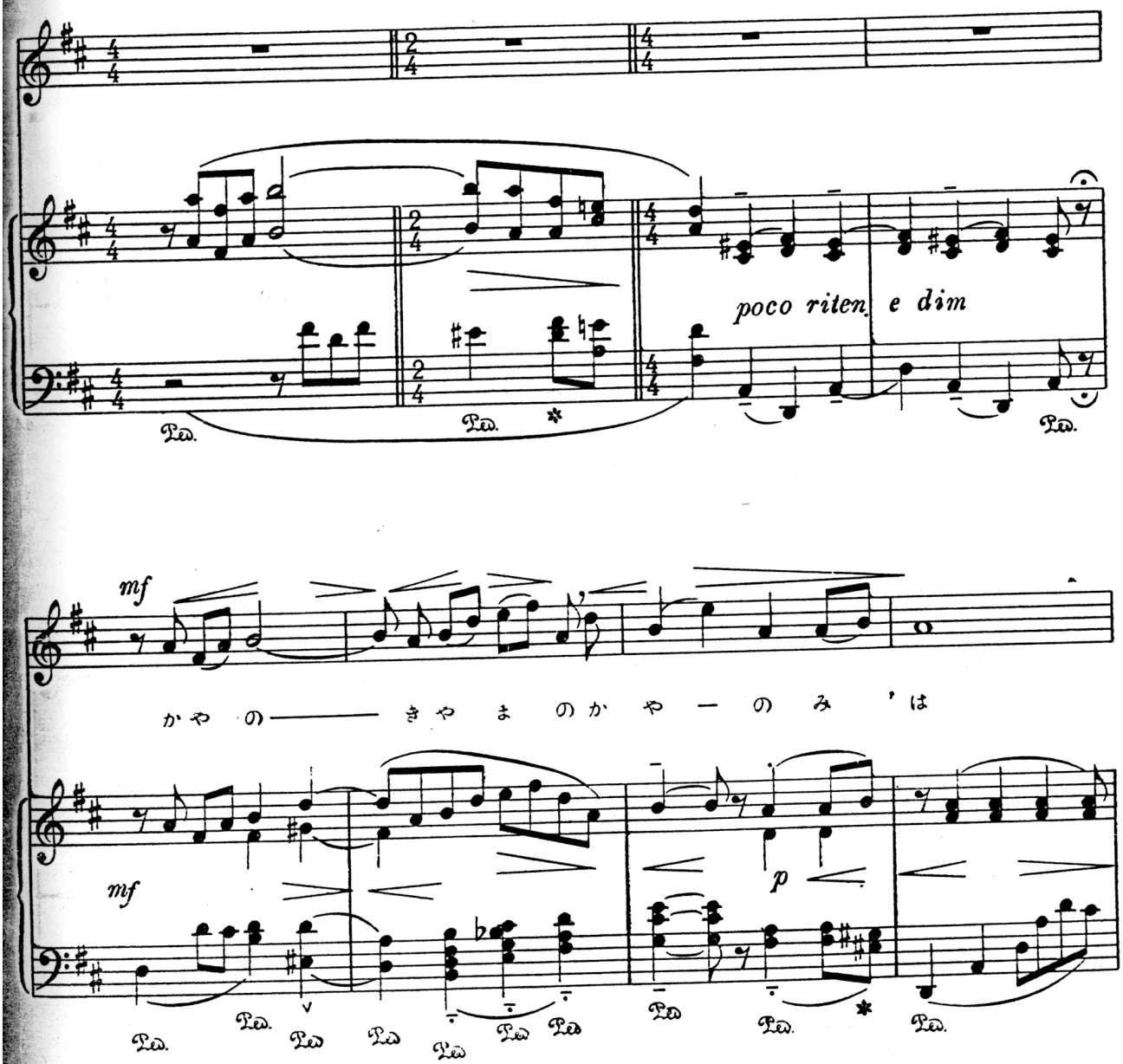
かやの木山

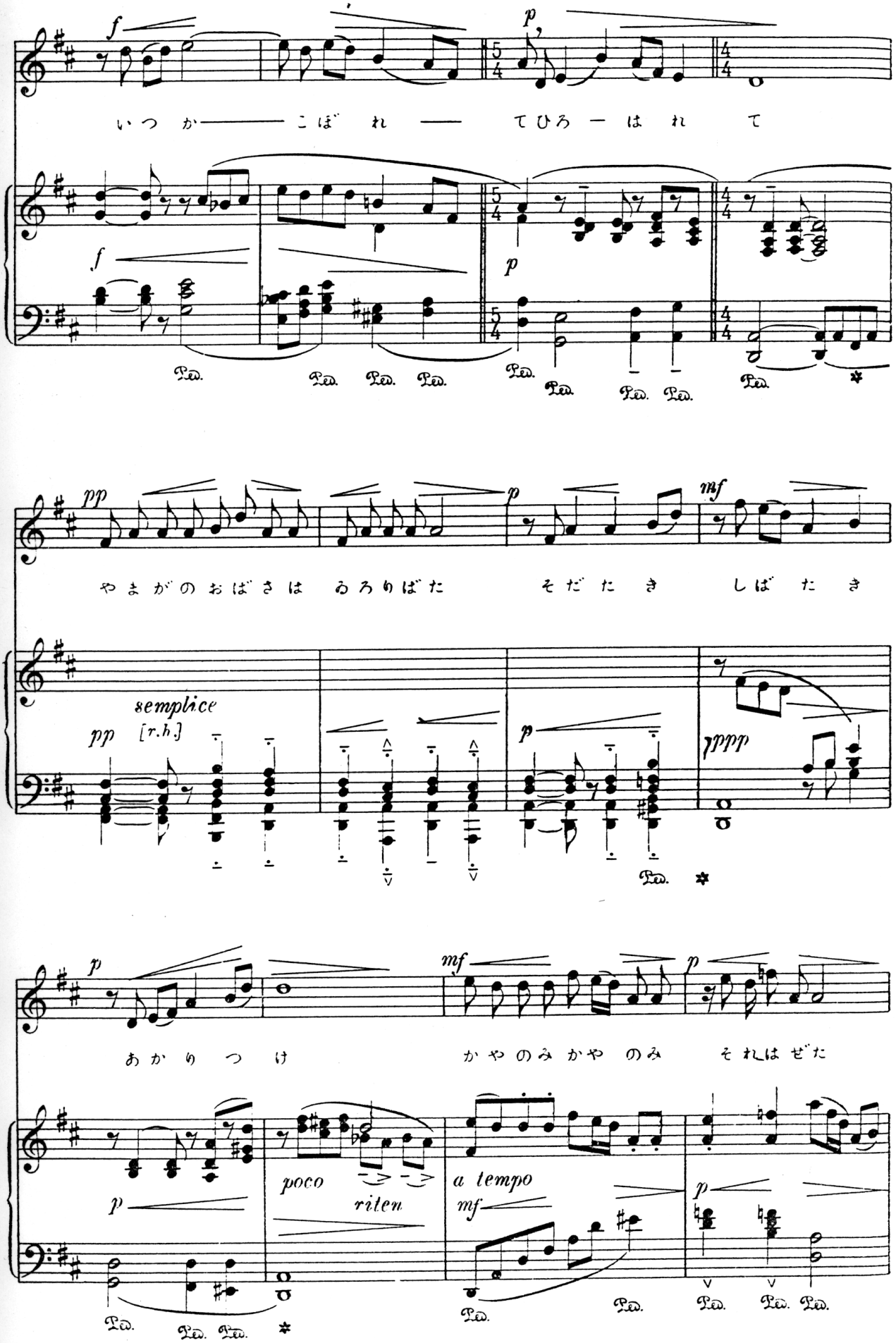
―白　秋―

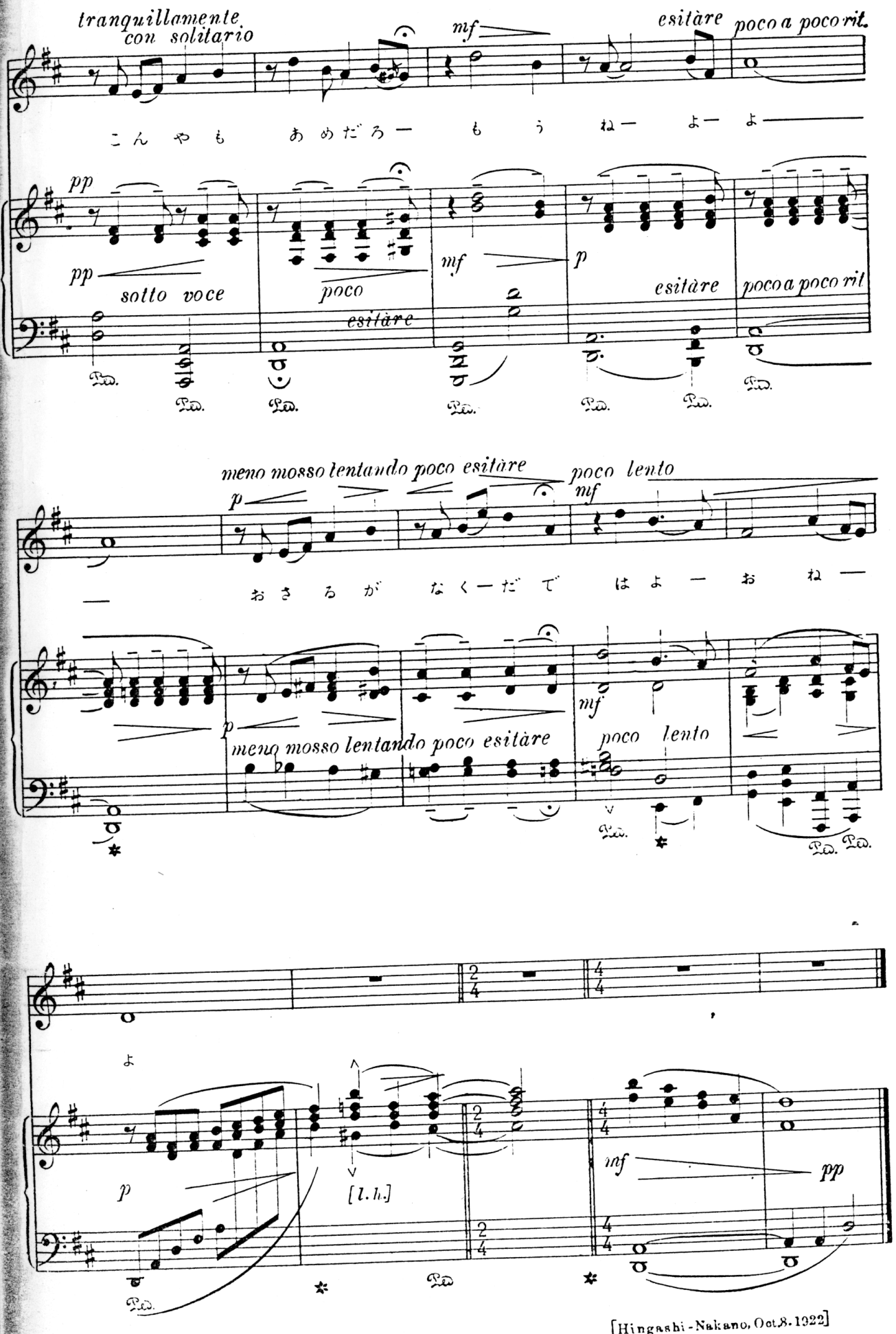
Allegretto.

alla giapone.[M.M.♩=96]

Kōsçak Yamada.




f
p
いつか——こばれ——てひろーはれて
pp
p
mf
やまがのおばさはゐろりばた そだたき しばたき
semplice
[r.h.]
pppp
あかりつけ かやのみかやのみ それはぜた
poco
riten
a tempo



[Higashi-Nakano, Oct.8.1922]

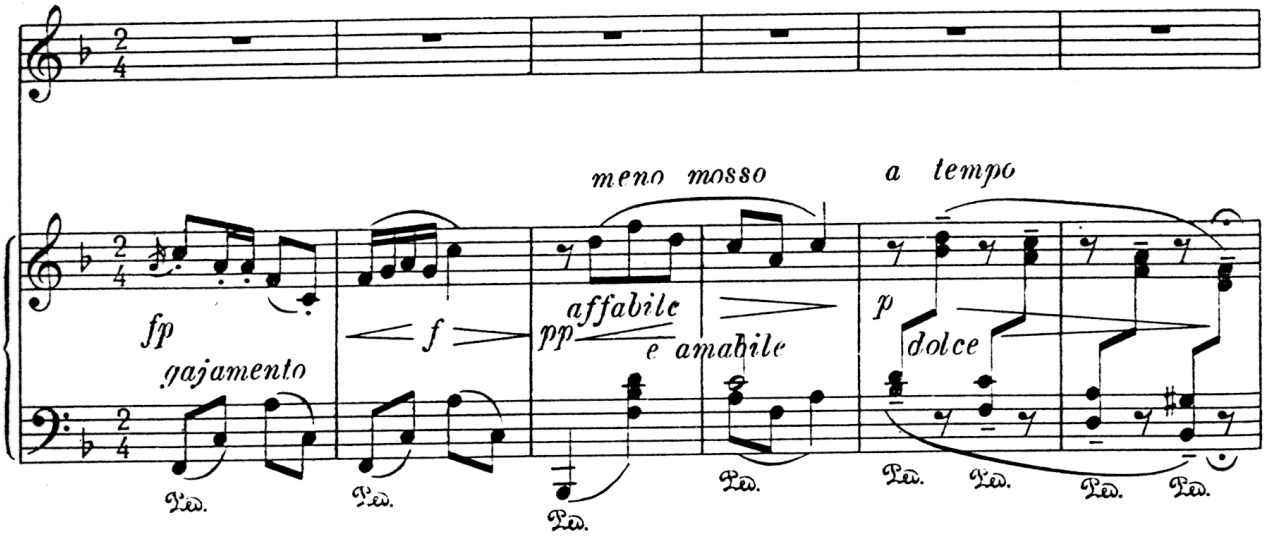
狸　橋

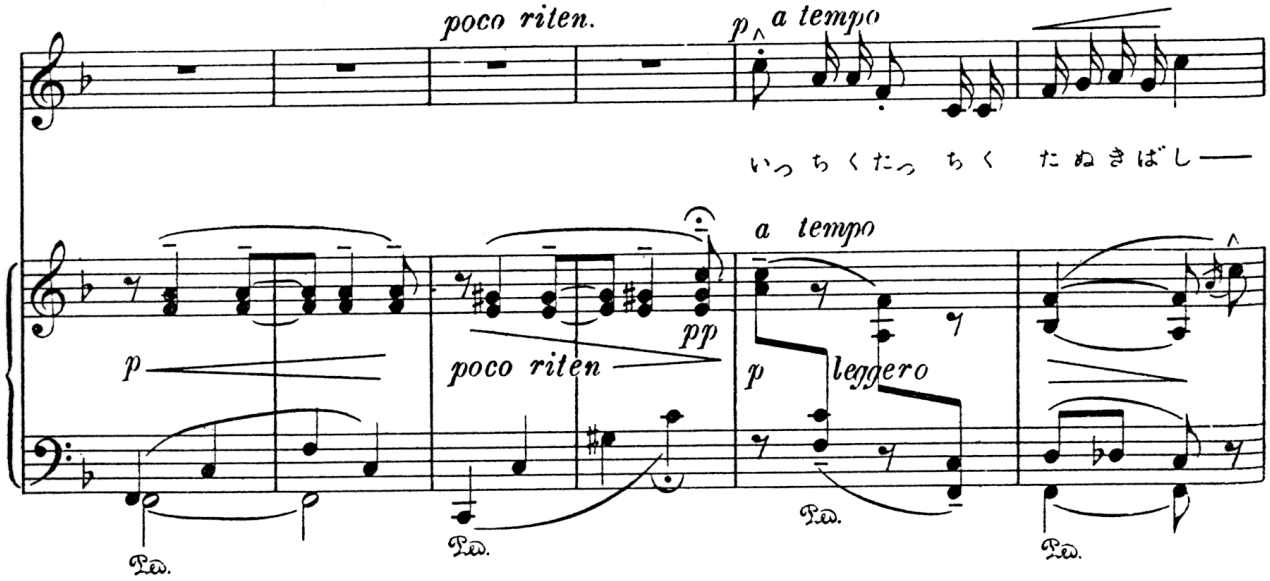
—露　風—

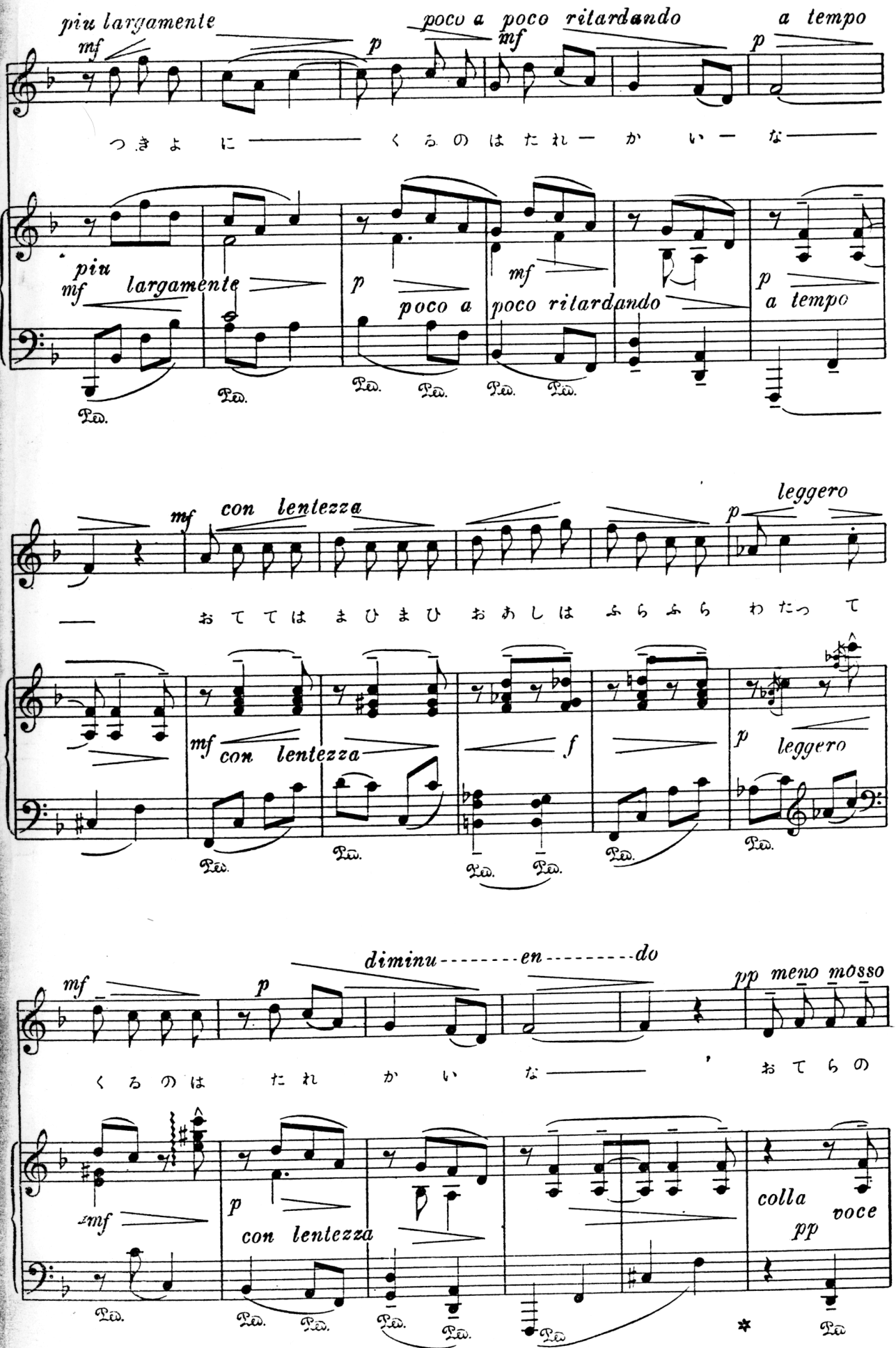
Allegro liberamente

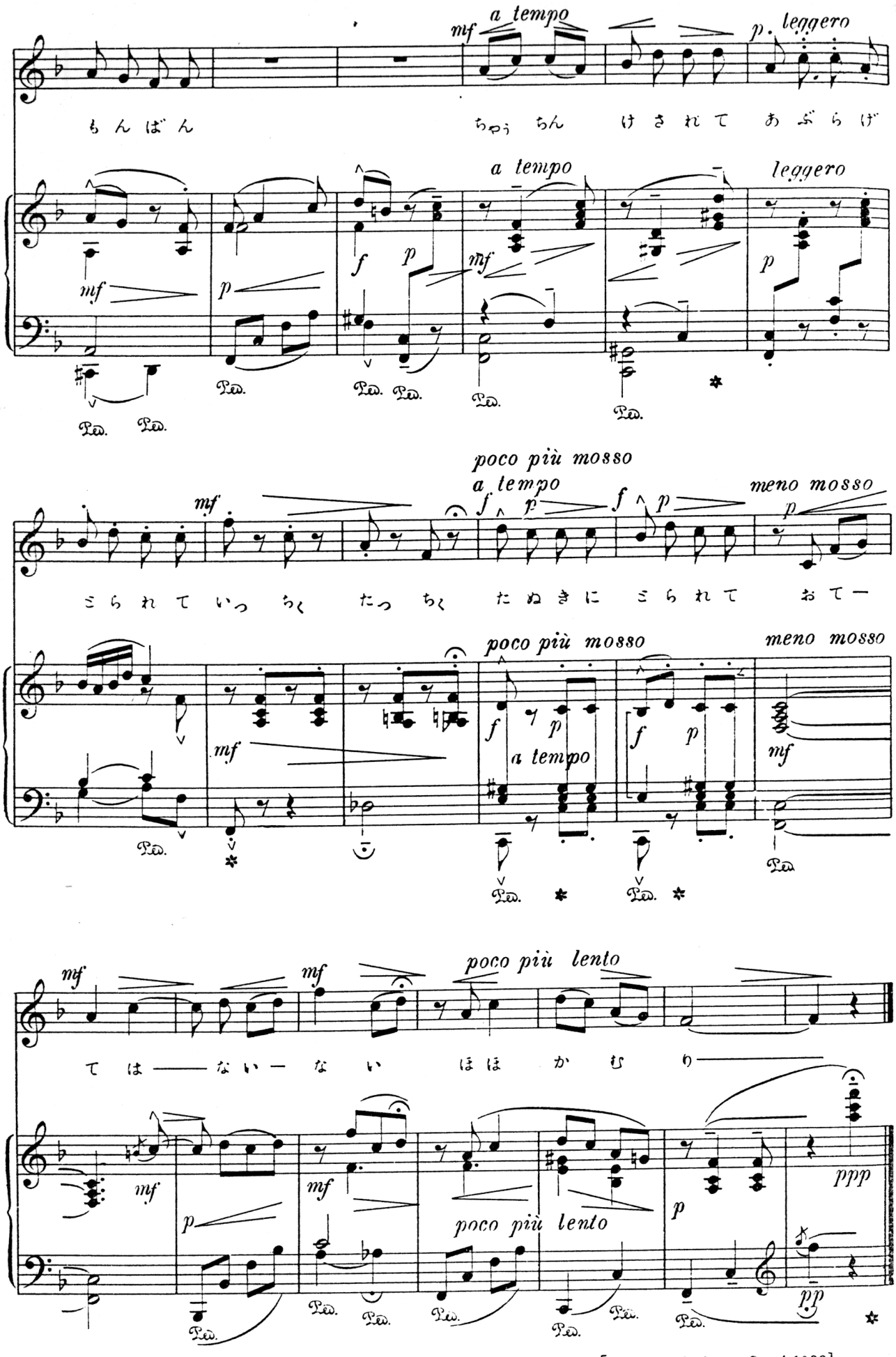
[M.M. ♩=104]

Kōsçak Yamada.






piu largamente
poco a poco ritardando
a tempo
つきよに——くるのはたれーかいーな——
おててはまひまひおあしはふらふらわたって
con lentezza
leggero
diminu-------en--------do
pp meno mosso
くるのはたれかいな——
おてらの
colla voce



[Hingashi-Nakano, Oct.4.1922]

蟹味噌

北原白秋詩
山田耕作曲

1

どうせ、泣かすなら、
ビリリとござれ
酒は地の酒、
蟹の味噌。

2

臼で蟹搗き、
南蠻がらし、
どうせ、蟹味噌、
ぬしや辛い。

3

酒のさかなに
蟹味噌噛ませ、
泣えてくれんの、
死んでくれ。

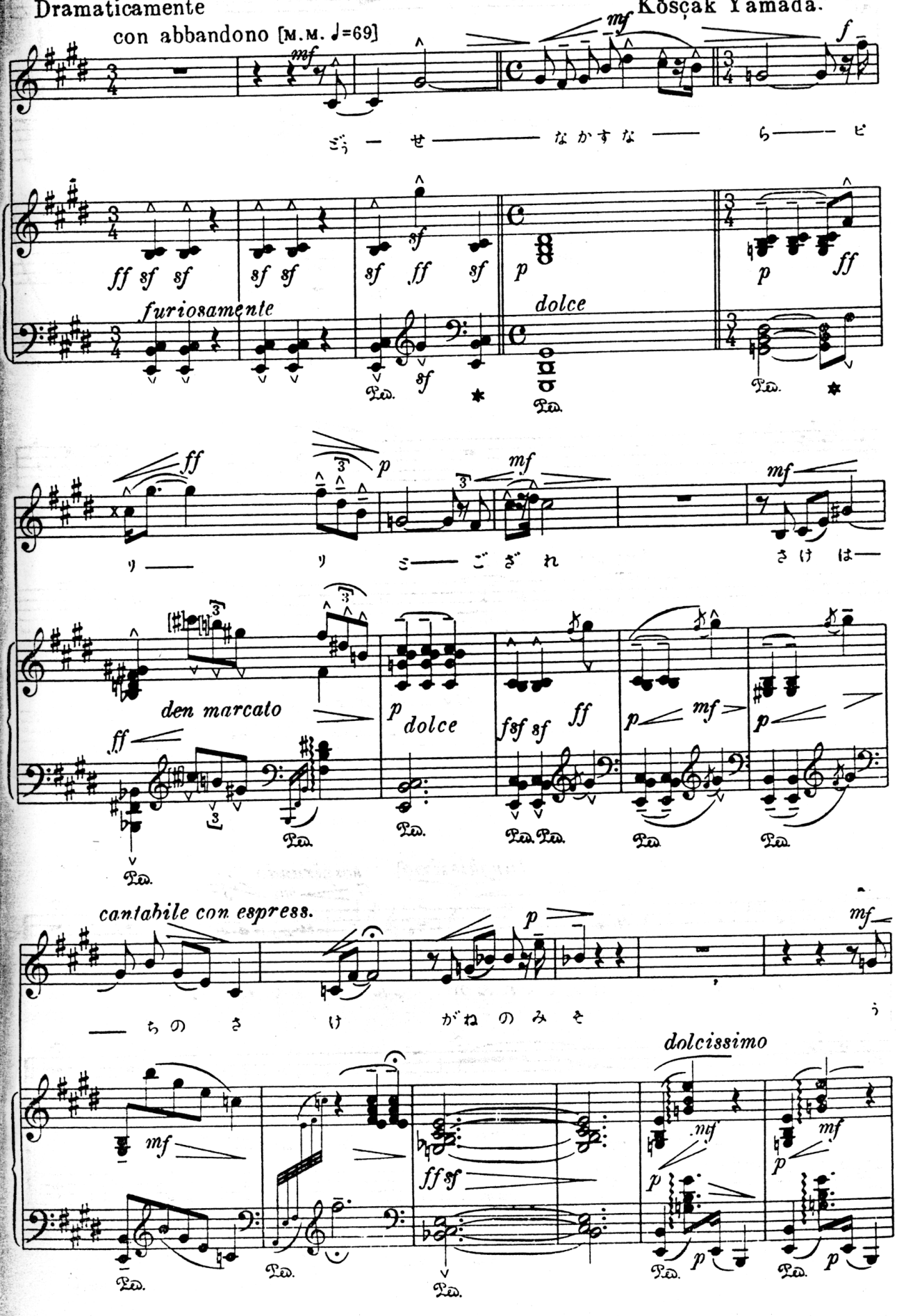
蟹味噌

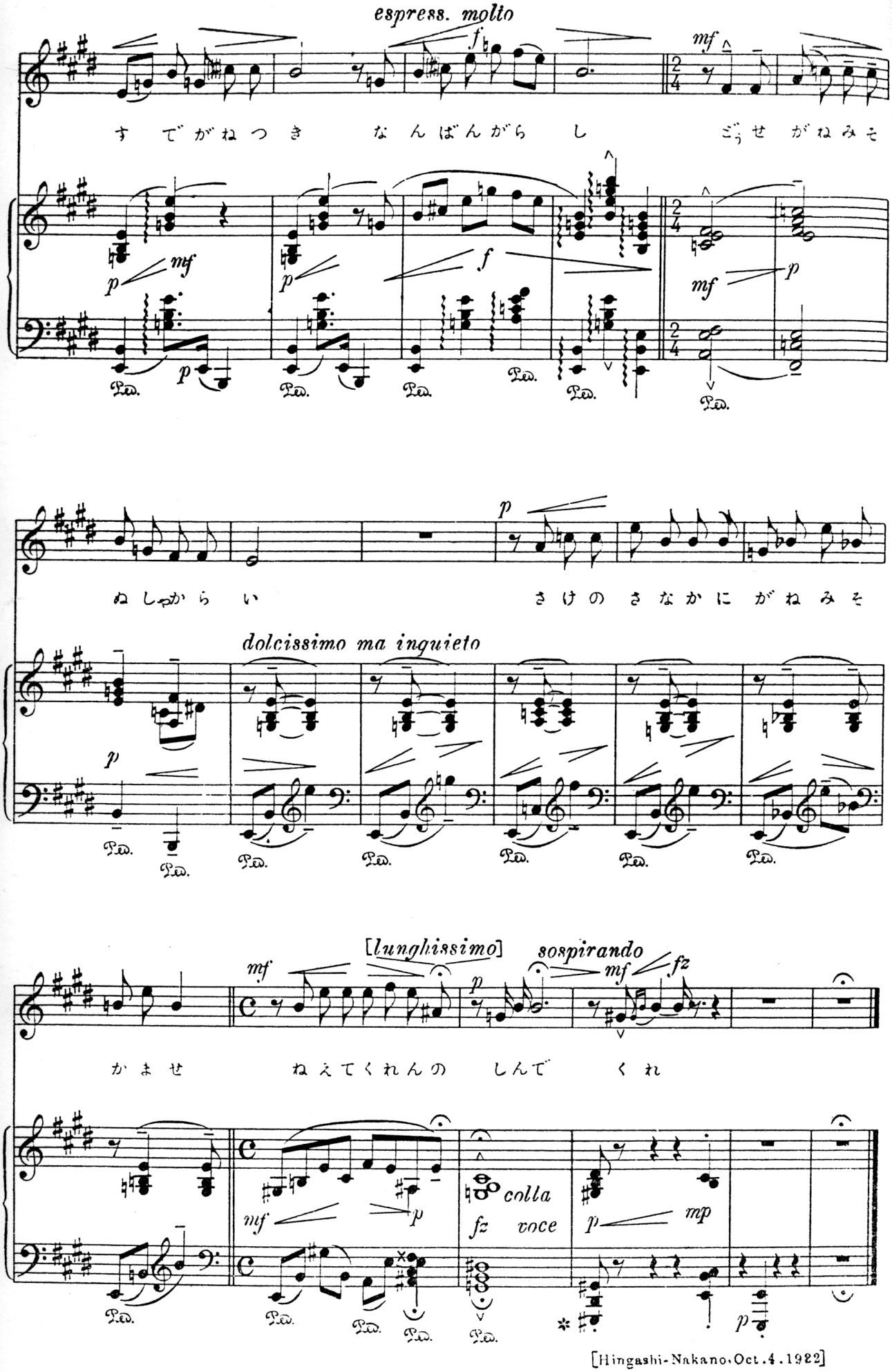
—白　秋—

Dramaticamente

con abbandono [M.M. ♩=69]

Kōsçak Yamada.




espress. molto
すでがねつき なんばんがらし ごうせがねみそ
ぬしゃからい さけのさなかにがねみそ
dolcissimo ma inquieto
[lunghissimo]
sospirando
かませ ねえてくれんの しんでくれ
colla
fz voce
[Hingashi-Nakano, Oct. 4. 1922]